

早生加温ハウスにおける花芽分化促進法

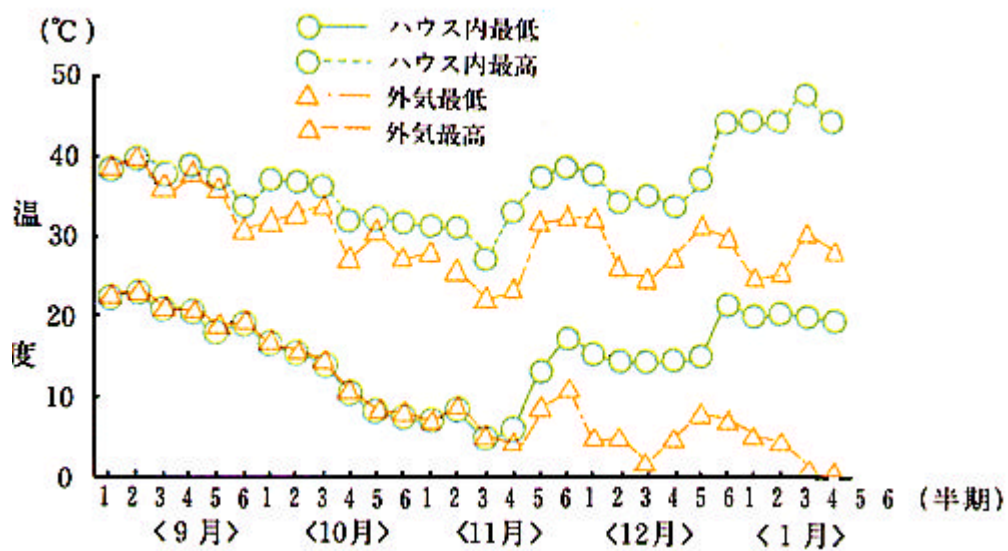
農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

早生温州の加温ハウス栽培は、収穫時期が早いほど価格が高値安定にあり、早期加温ハウス栽培が増加傾向にある。しかし、外気温の高い時期に加温するため、結果母枝の充実が遅れ、着花の不揃いが多く安定生産に問題がある。このため夏季剪定時期及び土壌乾燥、葉面散布等が着花に及ぼす影響について検討した。

研究の成果

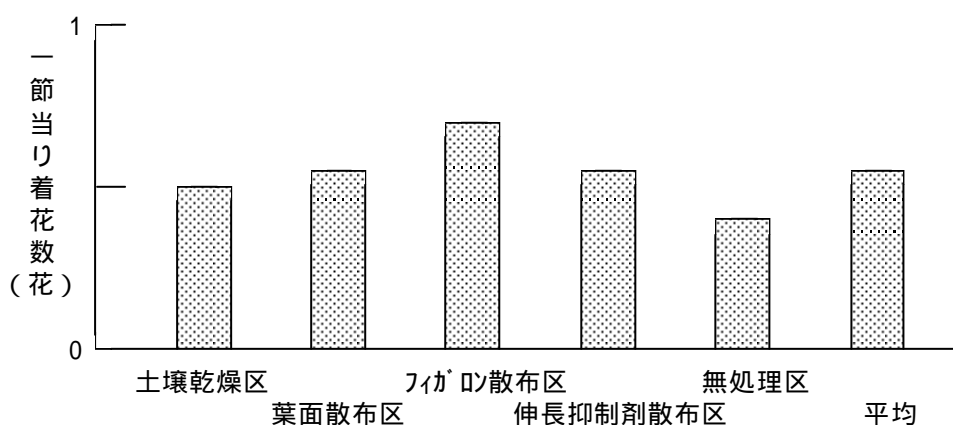
1. 夏季剪定別着花量は、いずれの処理区も、7月24日剪定よりも早く剪定(7月4日)した区が、各処理区とも多くなった。
2. 処理間における着花量は、両剪定時期ともフィガロン散布区が最も多く、次いで新梢抑制剤散布区、葉面散布区、土壌乾燥区であった。
3. 以上の結果、早期加温ハウスでは、花芽分化促進法として、夏季剪定を早く行って夏枝を早く緑化させた後、フィガロン散布、葉面散布、土壌乾燥等を行うことによって着花が多くなることが明らかになった。



第1図 施設内及び外気温度の推移

第1表 処理の違いと着花状況（7月4日剪定）

項目 区	母枝長	節 数	着花数	内 訳		1節当り 着花数
				有葉数	直 花	
土壤乾燥区	19.1	10.8	6.2	0.8	5.4	0.58
葉面散布区 フィガロン	19.9	11.3	6.1	0.3	5.8	0.53
散布区	20.8	12.0	8.0	0.9	7.1	0.67
伸長抑制剤 散布区	17.3	10.3	5.7	0.4	5.3	0.54
無 処 理	19.0	10.6	4.3	0.4	3.9	0.39
平 均	19.2	11.0	6.1	0.6	5.5	0.54



第2図 1節当り着花数（7月4日剪定）

第2表 処理の違いと着花状況（7月24日剪定）

区	項目	母枝長	節 数	着花数	内 訳		1節当り 着花数
					有葉数	直 花	
		cm	葉	花	花	花	花
土壤乾燥区		20.5	11.3	3.9	0.3	3.6	0.35
葉面散布区		21.1	11.4	4.7	0.3	4.4	0.40
フィガロン 散布区		21.9	11.7	5.5	0.4	5.1	0.47
伸長抑制剤 散布区		20.8	10.7	4.4	0.5	3.9	0.41
無 処 理 平 均		21.1	11.3	3.6	0.5	3.1	0.30
		21.1	11.3	4.4	0.4	4.0	0.38

